

## アジア編:

### 市場拡大のさらなる期待高まる、中国の民生用電子機器

中国の民生用電子機器市場は、飛躍的な拡大を続けており、2009 年には北米、西欧に続き、世界第 3 位になると予測されている。中でも、液晶モニター市場と GPS 搭載の携帯電話端末市場は、成長市場として期待されており、メーカー各社は中国市場に焦点を当てた戦略を行っている。

#### <世界における民生用電子機器市場の予測>

世界における 2009 年の民生用電子機器市場の売上高は、2008 年の売上高予測値から 420 億ドル増の 7,000 億ドルに達すると、Consumer Electronics Association (CEA) と調査会社 GfK グループが 7 月 9 日付で予測している。主に、BRICs 諸国(ブラジル、ロシア、インド、中国)など新興市場の経済発展と大量の中産階級が増加したことが、同市場における民生用電子機器の需要増をもたらしているとのこと。また、地域別では、2009 年の中国市場が世界における民生用電子機器の売上高シェアの 15% 近くを占め、22% の北米市場、16% シェアの西欧市場に続く 3 番目の市場規模となると予測している。

#### <成長への期待がかかる、液晶モニター市場と GPS 搭載の携帯電話端末>

世界の民生用電子機器市場における中国のプレゼンスが高まりつつある中で、その代表格と言えるのがデスクトップ向け液晶モニターだ。7 月 8 日付 DisplaySearch 発表によれば、中国の液晶モニターの出荷台数は 2011 年に、北米地域の出荷台数を超すとの予測。2008 年～2011 年の中国の出荷台数の年平均成長率は、13% と堅調な成長が期待されている。その結果、2011 年の地域別の出荷台数の市場シェア予測は、①欧州・中東・アフリカ(EMEA) (31.5%)、②中国(21.1%)、③北米(19.2%)、④アジア・太平洋(14.7%)、⑤中南米(11.4%)、⑥日本(2.0%)となっている。こうした中国市場の拡大が予想される中で注目を集めているメーカーが、中国の Admiral Overseas Corporation(AOC)だ(5 月 21 日付 DisplaySearch)。同社の 2008 年第 1 四半期の出荷台数は、前年同期比 72% 増の 180 万台。地元中国を中心に出荷台数を増加させていることに加え、中国を含むアジア・太平洋地域においても、前年同期比 222% 増となっている。中国市場において、中国メーカーが海外メーカーとの競争を通じて着実に力を付け、その経験を他のアジア諸国での展開に生かしている成功例といえる。

もう一つの成長市場として注目が高いのは、中国の GPS 搭載の携帯電話端末だ。既に、3 億人が携帯電話サービスに加入している中国は、世界最大の市場となっているものの、大部分の人々が基本機能のみを搭載した携帯電話端末を利用している状態で、ハイエンド携帯電話端末はまだ普及してない(7 月 7 日付 InformationWeek 誌)。例えば、音楽、カメラ及び GPS 搭載の携帯電話端末の普及率は、2007 年には、全体のわずか 0.6% の端末に留まっている。この潜在的な成長市場での成功を目論み、主要メーカー各社は、GPS 搭載機種の販売を増加しており、2008 年には、2007 年の約 3 倍の機種が GPS 搭載機種になると見られる(7 月 2 日付 In-Stat)。例えば、アジア市場で Nokia に後塵を拝している Motorola は、中国の若者、ビジネスマンをターゲットにした GPS 搭載の携帯電話端末の発売を 7 月 8 日付で発表している。